

L I M

どんど焼き

全国でさまざまな呼び名があります

どんど焼きは数本の竹などを組み立て、そこに正月飾りやだるま、書初めなどを持ち寄って焼く小正月の恒例行事です。

東北地方などでは「とんど焼き」、関西地方では「とんど焼き」など、全国に様々な呼び名がありますが全国的にはどんど焼きと呼ばれることが多いようです。

どんど焼きの発祥とは？

現代のどんど焼きは江戸時代以前の旧暦の伝統を引き継ぎ、「1年間の集落の繁栄」や「1年間の住民の健康」、さらには「集落の明日を担う生命の再生」という三つの大きな祈りが柱になっていると考えられています。実はどんど焼きの発祥というのは諸説ありますが定かではありません。一説にはアジア、ヨーロッパ地域といったユーラシア大陸全域では、古くは紀元前のササン朝ペルシア時代から新年に「ノウルーズの新年拝火行事」というものがあつたとされており、これが各地に伝播したとも言われています。

大陸を東に移動するにつれてこうした行事が伝わっていったかと思うと少しノスタルジーな感じもしますね。



江戸時代に「とんど」から「どんど」へ？

江戸中期(1700年代初頭)に編纂された「和漢三才図会」によると、すでに小正月の焚き火が広く民間に行われており、一般には「とんど」と呼ばれ、俗に「左義長」と言われていた旨をうかがわせる記述があります。

また「とんど」で子どもたちが書初めを燃やす風習について、宮中の吉書上げの節会を真似したものではないかとも…。

その後、江戸後期の天明(1780年代)の頃に編集された「閭閻歳事記」では正月飾りなどを集めて、小屋(舎)を作り、その上に五色の紙で小旗を立て、十四日の早朝に町外れの野原に引き出して燃やしていることや賑やかに太鼓や笛を打ち鳴らして囃し立てていることなどが紹介されており、「どんど」と呼ばれるようになっている記述があります。

同じくこの頃にはどんどの火でもちを焼いて食べ、無病息災を願う風習も定着しました。

どうやらこの時期に現代のどんど焼きのスタイルが確立されたようですね。



出典：NPO地域資料デジタル化研究会・小正月行事の全国調査



都市部では行われなくなる所も増えていますが続けて欲しい行事ですね